

ディオになりてえ

第 16 期 OB 北澤 涼平

光陰矢の如しとはよくいったもので、去年 25 になった。四半世紀である。著者は、まだまだ身体も心も衰えをみせてはいないつもりではあるが、小野ゼミの同期を含めた周りの同年代に目を向けると、所謂ビール腹の兆候を感じさせる贅肉を腹回りに蓄えだすものもいたり、会うや否や健康・婚活・仕事の愚痴の話題を、ダムが決壊せんとばかりに口から溢れさせるものもいたりして、辟易する。著者はしばらく学生でいる予定なので、こうした話題に本格的に自分自身がかかわるのはもう少し先のことも知れず、対岸から楽しくヤジを飛ばすことが多いが、将来の自分に思いをはせると不安である。(そんな中、学部を卒業してもなお、稚拙で下品で最高な話題を時たま提供してくれる 16 期同期の男子諸君には感謝している。)

あと、後輩の学部ゼミ生を見送ることも多くなった。つい最近送り出した小野ゼミの 18 期生は、16 期 OB で現小野ゼミ大学院生である著者と岩間君以外の、著者の同期 16 期とは、直接ゼミ活動も行っていないというのだから驚きである。18 期生が入ゼミしたのは、つい最近のことだと思っていたのに。さらに、今年入ゼミしたゼミ生は、20 期生であり小野ゼミとしては節目の年を迎え、もう著者の代とは 4 期も離れている。何度も言うが、本当に時が過ぎるのが早い。

ここで、なぜ年齢を重ねるにつれて時の流れが加速していくのか少しだけ調べてみた。この要因を探ることによって、少しでも時を止めたい。切実な 25 歳の願いである。まず、ジャネーの法則というものが見つかった。これは、19 世紀のフランスの哲学者であるポール・ジャネーが主張したもので、「人間が感じる時間の長さは、年齢の逆数に比例する」という考え方である。年を取るにつれて人生における「1 年」の比率が小さくなるため、体感として 1 年が短く、時間が早く経過しているように感じられるらしい。例えば、1 歳の時に感じた (1 歳が時の流れを知覚できるかどうかは置いておいて、) 1 年を $1/1$ とすると、2 歳の時の 1 年は $1/2$ となり、1 歳の時の 2 倍早く感じるようになる。5 歳、10 歳、20 歳と分母である年齢が大きくなればなるほどこの傾向は、顕著である。これは、どうやら年齢という抗いようのない要因によって、時の流れの知覚が決定するらしく、対策を講じることが難しそうだ。

結果として、対策を立てられそうな要因として、体験される出来事の数・感情の状態というものが見つかった。まあ考えれば当たり前の話ではあるが、同じ時間でも、体験される出来事の数が多いほど、感情の起伏が激しいほど、時間を長く知覚する傾向があるらしい。年齢を重ね、決まったことしかなくなり、良い意味でも悪い意味でも穏やかな生活を送ることが時間の流れを加速させているのだ。この生活を打破し、果敢に様々な出来事を体験しようとして、自分自身を感動させる生活をして時の流れを積極的に止めていこうと思う。